



Vol.36

2016 SPRING

# まんだらげ

広報誌「まんだらげ」の名称について

和歌山を代表する江戸時代の外科医・華岡青洲が全身麻酔薬として用いた植物「曼陀羅華(まんだらげ)」から引用しています。花に「医」の文字をデザインしたものは、本学の校章にも採用されています。

Photo: 紀三井寺(和歌山市)



## Contents

新体制のごあいさつ

特集/ 専門看護師、認定看護師による専門外来

TOPICS/ 市民公開講座「認知症にならないために」

近畿地方DMATブロック訓練

日本医療マネジメント学会開催

診療科紹介/ 血液内科、泌尿器科

### 理念

私達は安全で質の高い医療を提供し、地域の保健医療の向上に貢献します。

### 基本方針

- 1 患者さんとの信頼関係を大切にし、安全で心のこもった医療を行います。
- 2 高度で先進的な医療の研究をすすめその成果を反映した医療を行います。
- 3 豊かな人間性と優れた専門技術を持った医療人を育成します。
- 4 和歌山県の基幹病院として、地域の保健医療に貢献します。

# 新体制のごあいさつ



理事長・学長

岡村 吉隆

## 最先端の技術と人材を伴った 医療体制と診療機能を強化

昨年創立70周年という節目を迎え新たなスタートとなる本年は、さらなる前進に向けて、和歌山県の基幹病院として最先端の技術と人材を提供できるよう、充実した医療体制と診療機能の強化に今まで以上に努めてまいります。

最先端のロボット支援手術による前立腺全摘除術の症例数は、現在までに200例を超えました。ロボットを扱う医師も増え、手術時間が大幅に短くなっております。また今年4月から腎臓全摘除術の保険適用が認められ、膀胱全摘除術に関しましては、大学側が一部費用を負担して先進医療につなげることを目指しています。

特に今年度は看護師や理学療法士、臨床工学技士、放射線技師、管理栄養士、薬剤師などコメディカルスタッフを増員します。医師とコメディカルが互いの専門性を尊重し連携するチーム医療を強化します。

今年2月には和歌山県立医科大学と大阪府立大学との間に、産学官連携基本協定を締結しました。高齢者向けの医療対策や地域の産業振興など、福祉や県の活性化に関する取り組みも具体的に実現していく所存です。さらに平成33年の薬学部新設に向け、県や和歌山市との積極的な検討も進めていきます。



病院長・整形外科教授

吉田 宗人

## 地域医療連携の強化と ワークライフバランスシステムの構築

今年で病院長就任から3年目となり、気が引き締まる思いです。

8年前に本学医学部の地域医療枠、県民医療枠に入学し、2年前に卒業、2年間の初期研修を修了した医師が、今年度から県内各地の医療機関に派遣されます。

県内唯一の大学病院として、ますます地域医療に貢献できるものと期待しています。

昨年度診療開始した「形成外科」、「リウマチ・膠原病科」については、診療体制をより一層充実させ、様々な症状にお応えできるよう取り組んでいます。

また、4月に患者支援センターを設置し、患者さんの入退院支援の強化も図っています。

私が病院長に就任した当初から、取り組みたいと考えていたのが「ワークライフバランス」です。

当院においても院内保育園の整備や短時間勤務制度の導入など、育児や介護をしながら仕事と両立できるよう、様々な対策を講じてきました。しかし、これまでより、もう一步踏み込んだ取り組みをしたいと考えています。今年度は女性の就労支援・職場復帰支援のための環境整備・体制づくり、キャリアサポートなど、「ワークライフバランス」システムを構築し、優秀な人材が生きがいを持って働き続けることができるよう、取り組んでまいります。

## 患者支援センター設置

副院長・リハビリテーション科教授

### 田島 文博



引き続き副院長を務めることになりました。今年度は同時に拝命した患者支援センター長としての業務に力を入れてまいります。

患者支援センターは、地域連携室と病床管理センターを統合し、患者さんのスムーズな受け入れと退院に向けた支援、療養生活に関する相談支援を効果的に進めるために設置したものです。今後は患者さんが入院された早い段階から、担当看護師や医療ソーシャルワーカーが患者さんのもとにお伺いし、退院支援を行って参ります。

私どもは、県内唯一の大学附属病院として、様々な面から最善の医療を提供できるように努力いたします。

## 和歌山県の医療の充実と発展を目指して

副院長・脳神経外科教授

### 中尾 直之



一昨年春に副院長を拝命した際に丁度待望の附属病院東棟がオープンしました。中央手術部では手術室の7室の増室とともに、カテーテルを用いて行う血管内治療と外科手術を組み合わせ合わせた治療ができる『ハイブリッド手術室』が整備され、はやくも2年が経ち、これら充実した装備に伴い高難度技術を必要とする手術の件数が増加しています。

和歌山県立医科大学附属病院の最も大きな使命は、和歌山県における医療機関の中核として県民の皆様「安全で質の高い先進の医療を提供する」ことにあります。これからも微力ではありますが和歌山県立医科大学附属病院副院長として、和歌山県の医療の充実・発展に向けて、そして県民の皆様方に良質な医療を提供すべく一層の努力を続けていきたいと思っております。

## 副院長就任のごあいさつ

副院長・腎臓内科教授

### 重松 隆



このたび、新しく副院長に指名されました腎臓内科の重松 隆でございます。

ちょうど自分自身が和歌山県立医科大学に参り、10年目の節目にあたります。連携登録医の先生方はもちろんのこと、県内の病院をはじめ、受診いただく患者さんに対し「明るく親切に」を目標に微力ながら努力いたします。

まだまだ未熟で皆様のご支援を多々仰ぐことは必定ではございますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 地域医療に貢献できる看護職員の育成に向けて

副院長・看護部長

### 角谷 知恵美



4月1日に和歌山県立医科大学附属病院の副院長・看護部長に就任しました。これまで以上に責任の重大さを感じております。

看護職員113人を新たに迎え、看護部は臨時職員、補助員も含めると880人余りとなります。患者さんに最も身近な存在として最良のケアを提供し、他職種によるチーム医療をつなぐ職種として療養生活を支える存在になればと思います。

また、県内唯一の大学病院として、特定機能病院として、先進医療に対応した看護の専門性を発揮できる豊かな人間性と倫理観を持ち、自律した看護職員を育成し、臨床における実践、教育、研究の統合を通して地域医療への貢献に努めます。

# 専門看護師、認定看護師 による専門外来

当院には、特定の専門分野において卓越した看護実践能力を持つ専門看護師と、熟練した技術と知識を持つ認定看護師がいます。それらの看護師が、患者さんやそのご家族に対し相談、指導を行っている専門外来について、ご紹介します。



「がん看護相談外来」の温井看護師（写真左）と石徹白看護師

## がん看護相談外来

現在日本では、おおよそ2人に1人が一生のうち「がん」と診断されるなど、私たちにとって身近な病気となっています。また、がんと共に生きる多様な道のりの中には様々な心配事が生じます。

患者さんの中には、「がんと診断され、ショックで気持ちをどう整理していいのかわからない」、「再発の不安が常にある」と気持ちのつらさを話される方がいます。また、ご家族の中には「つらいのは患者なので私がしっかりしなければ…」、「どう患者と接すればいいの

かわからない」と家族としてのつらさを話される方もいます。

昨今は、がん治療が入院から外来へ移り、医療者に相談できずに一人で悩んでいる方や、多くの情報の中で混乱されている方も多くいます。専門的な知識や技術を持った看護師が、患者さんやご家族とともにがんを診断されても安心してより良い生活ができる方法を一緒に考え、支えることを目的にがん看護相談外来を開設しています。

### 対象

○がん患者さん及びそのご家族

### 内容

- がんと相談され、ショックで心の整理がつかない。
- 医師より治療方法を提示されたが、どのようなものか詳しく知りたい。
- 痛みなどのつらい症状で困っている。
- 不安で夜に眠ることができない。
- 今後の療養の場についてどのような選択肢があるのか知りたい。
- 医療費や生活費のことが心配。など

### 日時

- 毎週月曜日 9時～16時
- 1回30分(初回60分) 予約制

### 担当

- がん看護専門看護師 温井 由美
- がん性疼痛看護認定看護師 石徹白 しのぶ

### 場所

- 1階 緩和ケア外来診察室(外来化学療法センター内)



病院1階にある「がん看護相談外来」

## 慢性呼吸器疾患看護相談外来



病院3階にある「慢性呼吸器疾患看護相談外来」

慢性呼吸器疾患の患者さんが病気とうまく付き合いつながりながら、心身ともに安楽にその人らしく生活が送れるように支援することを目的に、平成27年11月に開設しました。

看護相談外来では、患者さんが日常生活を送る上で大切にしていることや価値観を理解し、病気と向き合う中で抱える悩みや問題を共に考えることを大事にしながら、自分の生活にあった自己管理の方法や日常の過ごし方を見つけていけるお手伝いをしたいと思っています。

### 対象

○慢性呼吸器疾患の患者さん及びそのご家族

### 内容

- 病気との向き合い方や身体やきもちのつらさを感じている。
- 病気のことは理解し、きちんと療養しているのに、なんだかうまくいかない。
- 在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法に関する疑問や生活での困りごとがある。
- 息切れをできるだけ起こさない工夫と対処について知りたい。
- 療養生活での悩みや相談がある。など

### 日時

毎週金曜日 9時30分～15時30分

### 担当

慢性疾患看護専門看護師 岡本 香津美

### 場所

3階 呼吸器内科・腫瘍内科外来

## その他の専門外来

	フットケア外来	糖尿病療養指導外来	ストーマ外来
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・足の観察方法や靴の選び方等、日常生活上での注意点の説明</li> <li>・爪や足のケアの実施</li> <li>・自宅でのケア方法の指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病に関する知識や必要な技術の指導</li> <li>・療養生活継続のための療養相談</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーマ周囲の皮膚の定期的な観察</li> <li>・トラブル時のケア方法の指導</li> <li>・日常生活や精神的なサポート</li> </ul> <p>※日常生活には問題がない方も、一年に1回の受診をお勧めします。</p>
日時	火・木・金曜日 13時～16時	平日 8時45分～15時	平日 8時45分～15時
場所	3階 糖尿病・内分泌・代謝内科外来	3階 糖尿病・内分泌・代謝内科外来	2階 消化器・内分泌・小児外科外来 3階 泌尿器科外来

## 看護師・助産師募集中

オンリーワンのあなたがいい～

当院では、平成29年4月1日採用となる職員を募集しています。  
詳細については当院看護部のホームページをご覧ください。

<http://www.wakayama-med.ac.jp>

(医科大学ホームページ → 附属病院 → 看護部)



QRコード



## 認知症を予防して健康寿命をのばそう



和歌山県立医科大学附属病院  
脳神経外科・准教授 小倉光博



国立長寿医療研究センター  
認知行動科学研究室・室長 大沢愛子

和歌山県認知症疾患医療センターは、2月6日(土)午後3時から本学講堂で市民公開講座「認知症にならないために『正しい理解と対策を』」を開催し、約250名の方々が来場しました。

3回目となる今回の講座では、当院脳神経外科・小倉光博准教授が「増えている?認知症予備軍」をテーマに単なる物忘れと認知症の物忘れの違いや認知症の種類や特徴、軽度認知障害(MCI)などについて詳しく解説しました。認知症は個人によって症状はさまざま

であり、家族が早期に異変に気づきすぐに受診を勧めることが非常に大事であると話しました。

特別講演では、国立長寿医療研究センター・認知行動科学研究室・大沢愛子室長が「認知症の予防とリハビリテーション」をテーマに講演し、認知症の症状は急に発症するわけではなく、加齢や病気、環境の変化などさまざまな要因により20年かけてゆっくりと進行していくと説明。脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などは認知症の原因であり、脳の病気の危険因子である高血圧、糖尿病、コレステロールに気をつけ、喫煙習慣を改めることが認知症予防につながるとアドバイス。同時にウォーキングや水泳など有酸素運動も認知症予防になると強調。講演の最後に大沢先生は「認知症予防で健康寿命をのばしましょう!」と語りました。



会場風景

## 大規模災害に備え、近畿地方DMATブロック訓練に参加

平成28年1月30日から31日にかけて、厚生労働省DMAT事務局と和歌山県が共同で行った近畿地方DMATブロック訓練に参加しました。

DMATとは、大規模災害や多傷病者が発生する現場へおおむね48時間以内に駆けつけ、活動する専門的な訓練を受けた医療チームです。

今回の訓練には近畿地方の各府県より59チーム、300人以上が参加しました。当院から4つのDMATチームと病院職員等が参加し、県内で活動する全てのDMATの指揮、調整、県内病院の被災情報の収集や災害現場での患者搬送などの訓練を行いました。



## これからの医療について、県内医療関係者が意見交換

平成28年2月13日、本学三葛キャンパスにおいて、日本医療マネジメント学会第11回和歌山支部学術集会を開催しました。

メインテーマを「これからの医療を考えるー組織マネジメントと圏域マネジメントー」とし、団塊の世代が75歳を迎える、いわゆる2025年問題に向け、地域における効率的かつ効果的な医療提供体制を確保するため、それぞれの医療機関及び圏域におけるマネジメントを考えるという視点で、幅広い職種 of 医療関係者が一堂に会し、発表を行いました。



# 診療科紹介

## 血液内科

### — 「高度集学的治療」と「幅広い診療」を提供します — 教授 園木 孝志

私たちの使命は「和歌山県の血液診療を牽引すること」であると考え、二つのことを心がけています。

一つには、高度で集学的な治療である「同種造血幹細胞移植」を確実に提供することです。かつて同種造血幹細胞移植を受けるために他自治体へ転院されることもありましたが、現在、ほとんどの同種造血幹細胞移植が当科で施行可能です。大変負担の大きい治療ですので、患者さんやご家族の気持ちを十分お聞きすることやチーム医療が肝要と考えています。治療後も患者さんやご家族と「移植の会」を開いて交流しており、私たちにとっても励まされる機会となっています。

もう一つは、血液疾患の「幅広い診療」を提供することです。血液疾患でお困りになっている患者さん



や医療関係者にとって、私たちの科が心強い存在でありたいと考えています。

二つの心がけを通じて、医学・医療の発展に少しでも貢献したいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます

## 泌尿器科

### 安全で良質な医療を県民の皆様に 教授 原 勲

泌尿器科では尿路悪性腫瘍(腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣がん)、尿路結石症、排尿障害、感染症、腎移植など幅広い領域にわたり安全で良質な医療を県民の皆様に提供すべく日夜診療に励んでいます。

泌尿器では従来の開腹手術はほとんどが腹腔鏡手術や内視鏡手術等の低侵襲治療に取ってかわっています。和歌山県立医科大学では2012年12月に手術支援ロボットであるダヴィンチを導入し、現在までに200例あまりの前立腺がん患者さんに対し前立腺全摘除術を行ってきました。繊細な操作が可能になったロボット手術では、がんの根治性を担保しつつ術後の排尿機能や性機能の回復に関して良好な成績を挙げています。また4月からは腎がんに対する部分切除術に



関しても保険適用になることが決定されています。

今後も県民の皆様のお役に立てるよう日夜努力を続けていきたいと思っていますので、ご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

# 掲示板

## 患者支援センター開設

平成28年4月1日から、患者支援センターにおいて患者さんの入院から退院までの総合的な支援、療養生活にまつわる相談などを行います。

### ～診療予約のご案内(初めて受診される方)～

当院の外来受診は、原則として「予約制」とさせていただきます。

ご予約は、できるだけかかりつけの医療機関などからFAXでお申し込みください。

## ■医療機関からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などから当院所定の「予約申込書」にて患者支援センターにFAX送信してください。
- ② 20分以内を目途に予約をお取りし、予約日時・医師名を記載した予約票を発信元の医療機関にFAX返信いたします。
- ③ 予約当日は、予約票・紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

### 患者支援センター

FAX番号：073-441-0805  
受付時間：月・火・水・金 9:00～19:00  
木 9:00～17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

## ■ご本人からのご予約

- ① かかりつけの医療機関などで紹介状をご用意ください。  
※特定の医師による診療をご希望の場合は必ず「〇〇科 〇〇医師」と明記した紹介状をご用意ください。
- ② 当院予約センター に直接お電話ください。
- ③ 予約当日は、紹介状・保険証・診察券(受診歴のある方)をご持参のうえ、外来受付に直接お越しください。

### 電話予約センター

電話番号：073-441-0489  
受付時間：月～金 8:30～16:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

※電話だけでなく9:30～17:00まで院内の予約窓口も開設しています。

## 患者さんの権利

当院では、受診される皆様が、以下の権利を有することを確認し、尊重します。

- 1 個人として尊重され、平等に良質な医療を受ける権利があります。
- 2 診療に関して、十分な説明と情報を受ける権利があります。
- 3 十分な情報を得た上で、自己の意思に基づいて医療を受け、あるいは拒否する権利があります。
- 4 他の医療者の意見(セカンドオピニオン)を求める権利があります。
- 5 個人情報やプライバシーを保護される権利があります。

※当院では、患者さんの安全を守ることを第一に診療を行っておりますが、他の患者さんや職員への暴力・暴言・大声・威嚇などの迷惑行為があった場合は診察をお断りすることや退去を求めることがあります。苦しい場合は警察に通報いたしますのでご了承ください。

## 患者さんへのお願い

当院では、さまざま医療を提供しておりますので、次のことを十分ご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

- 1 適切な医療を実現するために、患者さんご自身の健康に関する情報をできる限り正確にお話してください。
- 2 医療に関する説明を受けられて理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 3 治療上必要なルールはお守りください。また治療を受けていて不安を感じましたらすぐにお知らせください。
- 4 すべての患者さんが適切な医療を受けられるようにするため、他の患者さんのご迷惑にならないようご協力ください。
- 5 当院は教育・研究機関でもありますので、医学生・看護学生などが実習や研修を行っております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 病院ボランティア募集

みなさまの温かいお力をお待ちしております。

外来または病棟で、患者さんが安心して治療を受けることができるようボランティアの方を募集しています。

活動時間

外来①：8時50分～11時30分  
外来②：11時50分～14時50分  
病棟：病棟と調整の上決定します。  
(活動時間はいずれも調整可能です。)

※対象：平日に活動して下さる18歳以上の方  
詳細はお問い合わせください。

問い合わせ先

和歌山県立医科大学附属病院  
代表：073-447-2300  
医事課 ボランティア担当

## <外来受付時間>

- ・受付時間 午前8時50分～午前11時30分
  - ・再診で予約のある方は指定時間(予約票の記載時間)
  - ・休日/土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- ※診療スケジュールは、ホームページからご覧いただけます。